

## 基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

# 草加市立病院

## 大学との連携による 地域医療の実現



### 特別対談

草加市長

田中和明

東京医科歯科大学長

吉澤靖之

草加市立病院は市民の健康を守るため、救急医療や高度医療を柱に、関連大学である東京医科歯科大学と連携して診療を行っています。今回は東京医科歯科大学長に就任した吉澤靖之教授と田中市長に、草加市の医療や大学と連携した取り組みについて語っていただきました。

### 学長ご就任おめでとう いげんます

**田中市長** 4月に東京医科歯科大学の学長にご就任されました。誠におめでとうございます。

草加市の歴史は古く、松尾芭蕉の「奥の細道」に紹介された草加宿の開所以来400年が経ちます。今年の3月18日に草加松原の松並木が「おくのほそ道の風景地 草加松原」として国の名勝指定を受けました。最近では都内への通勤も利便性が高くなり、東京都民ともいえる若い方々も多く住む街となっています。

**吉澤学長** 今日は東京医科歯科大学へお越しいただきありがとうございます。市立病院といえども私も若い頃、新田駅近くにあった旧病院時代に大学から診療の応援に行った記憶があります。しかし、その時は今の施設とは比較にならないほどの規模でしたね。

**市長** 市立病院は国民健康保険直営診療所として開設されてから50年を超えるわけですが、東京医科歯科大学とのお付き合いは、昭和58年からもう30年になります。平成16年に現在の新病院を366床で開設し、平成24年には心臓・脳血管センターも開院させていただきました。この間、市立病院に多くの先生方を派遣いただきありがとうございます。

臨床と教育の現場です。そういう意味でもとても大切なパートナーと思っています。ただ大学には、医学、医療を通して国民の健康に寄与するという大きな課題があります。そのため東京医科歯科大学は「知と癒しの匠を創造する」をミッションに掲げ、豊かな人間性を備えた医師養成に努めてきました。患者や家族の方から「ありがとう」のひと言がいただける医療人を育成したいと思っています。

また、本学は独立法人化して10年ですが、学問的な面では基礎と臨床医学の双方で国際的な実績をつくるという高い目標を掲げています。

### 救急医療と 高度医療の充実

**市長** ご存じと思いますが、現在の草加市立病院の開院当初、医師不足から産婦人科診療が休止に追い込まれるという経験がありました。それ以来、草加市は若い方からお年寄りまで医療における安全安心を守るという視点から、市立病院への援助を草加市の一般会計から行っているところなんです。この財政支援に対して、一部にはご批判も受けて

いますが、最近では異常気象などから近隣で竜巻の被害なども発生し、救急医療や災害医療を行う上で今後も市立病院の役割が大きくなると考えており、引き続き草加市からの援助を行っていきたく考えています。

に大きな理解と援助をしてくださっていることは高元病院長から伺っております。市立病院は一般病院とは違って営利性を追求した病院ではありませんから、どうしても草加市からの支援は必要になります。現在、大学から医師を派遣しているのはこのような公益性のある病院だけです。また、様々な分野で地域医療に貢献することは大学の使命でもあるわけです。最近では、草加市立病院への派遣を希望する大学医師も増えているのではないのでしょうか。

**市長** 市立病院は2年前の心臓・脳血管センターの開設に併せて、新たに心臓血管外科、血液内科、腎臓内科などの診療科を設置して24の診療科となりました。医師数は産婦人科の診療閉鎖後に高元病院長に就任していただいていた以来毎年増加して、今年度は平成16年の新病院開院当時のほぼ2倍、98名の体制となっています。このような中で市立病院への市民の期待は大きくなってきているわけですが、地域の医師会との連携を図る中で、市立病院の二次医療機関としての役割を議論してまいりました。救急医療と高度医療に関しては、医療機器の購入や施設整備に多額の費用が必要であり、24時間365日の対応をとる救急医療は、豊富な医師・看護師などの配置が必要となるため、どうしても市立病院が頼りとなると思っています。おかげさまで心臓・脳血管センターに設けたICU・CCUの集中治療室、血液透析

室などを含めて順調に稼働してきており、市立病院の先生方には頑張っていたいただいているところです。

### 子ども急病夜間クリニック

**市長** もう一つ草加市では、草加八潮医師会にお願いいたしまして、子ども急病夜間クリニックを運営しています。これは子育て世代のお母様方から強い要望をいただいていた、子どもの急病時間外クリニックです。こちらも365日、夜の7時30分から10時30分までの一次診療を休まず行っており、電話による事前連絡なしでも受診できる診療所です。開院後は年間5000名ほどの乳幼児、小児が受診され、好評をいただいております。受診後に血液検査やレント



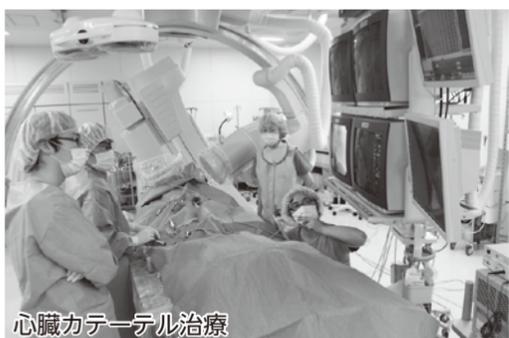
### 地域医療連携

**学長** 大学附属病院では、草加

ゲン検査など精密検査を必要とするお子さんは、すぐに同じ敷地内の市立病院小児科を受診できるシステムで、過剰勤務に追われていた市立病院の小児科の先生方を支援する体制となっております。

**学長** 地域の特色や要望に応えた医療形態が必要というわけですね。埼玉県は東京の近郊都市ですが国の統計を見ますと、今後急速に高齢化が進んでいくと予想される街でもあり、今後は高齢者医療も課題となってくるでしょう。そのような観点から、大学も心臓病、脳血管障害、がんなど幅広い診療体制を支える専門医師を派遣し、バックアップしていきたいと思えます。

市立病院をはじめ多くの関連病院と「医療連携支援センター」という部門を通して密接な連携を推進しています。これは、例えば潰瘍性大腸炎やクローン病、悪性関節リウマチ、神経難病、がん、頭頸部腫瘍など、現在では治療困難といわれている様々な病気に対して、大学病院で最先端の医療を希望される患者さんに、平等な機会を提供するためのシステムといえます。この「医療連携支援センター」は、患者さんへの直接の受診依頼窓口ではなく、医療機関向けの窓口です。ですから、草加市民の方々は草加市立病院を受診されご相談いただければ、無駄な時間がなく、必要に応じて大学病院を受診することができるといふこととなります。当然のように、草加市立病院も二次医療機関ですから、同じようなシステムを地域の医療機関との間に設置しているでしょう。この制度はより高度な医療をスムーズに提供するための有効なシステムですから、国民の方に広く知っていただく必要があると思えます。



心臓カテーテル治療

る方も多く、紹介率は40%に達しております。親しみやすい病院、あるいは人気の高い病院と言えるのかも知れませんが、その分外来が大変混雑し、悪循環となっております。診療予約のある方でも、予約外の患者さんが多くてその時間に診療が受けられなかったり、初めての方は診察待ちで大変な時間を費やしているお苦情も増えています。地域の先生方の診療所を活用していただければいいのだろうと思いますが、一般的な患者さんの心理として、どうせ病院に行くのであれば、できるだけ大きな病院へ、設備の整った病院へという気持ちもわからないわけではありません。医師会の先生方のご意見もお尋ねし、市長として市の施策を考えていかなければならないところです。

### 市民の健康づくり

**市長** 草加市は昭和53年に「スポーツ健康都市宣言」をし、平成24年度からは「SKT24推進事業」を立ち上げました。これは24万市民がスポーツに親しむことにより、健康志向を持つていただくようにする市民運動です。さらに子どもたちには食育を通して、健康な体づくりをしていただくことも思っています。健康を維持すれば病院のお世話にならなくても済むわけですから。

**学長** 確かに「健康づくり政策」を進めることは大きな意義があると思えます。病気の予防というのは非常に大事です。でもどうしても運動に取り組む人が限定されてくるという弱点もあるのではないのでしょうか。例



市民公開講座「脳卒中を知ろう」

えば6か月運動を続けた人が、やる前とやった後で何が変わったかを医学的に検証してあげることも大切ですね。また、市民向けの健康講演会の開催も必要でしょう。大学ではこのような予防医学をさらに一歩進めて、一人ひとりの遺伝子を解析できる施設を設け、その人が遺伝的に起こりやすい病気を予防するための医学的介入を行う、そういう診療部門を設置する計画も立てています。

### 大学と病院との人事交流を

**学長** これは大学からのお願いですが、今後、双方の組織で職員の人材交流を積極的に考えていくという事を実現するようにしたいのです。どうしても長く一つの組織にいますと思考が狭くなってきます。それで医師だけでなく事務職員や薬剤師、放射線技師、臨床検査技師なども交流してはどうかと考えています。

**市長** 現在、草加市でも埼玉県と厚生労働省からそれぞれ都市整備部や教育委員会に優れた方を招いています。教育委員会では、幼稚園・保育園から小学校、小学校から中学校への就学をス

## 吉澤靖之 よしざわ・やすゆき 東京医科歯科大学長

- 昭和45年 東京医科歯科大学第一内科
- 昭和47年 東京通信病院
- 昭和52年 イリノイ大学
- 昭和53年 ウィスコンシン医科大学
- 昭和59年 筑波大学助教授
- 平成5年 東京医科歯科大学助教授
- 平成10年 呼吸器科教授
- 平成20年 副学長
- 平成26年 学長



様々な分野で活躍した人に報いるためのインセンティブも待遇の面で将来取り入れていきたいと思っています。大学運営も新しい感覚が求められる時代です。

### お互いのミッションを成功させましょう

**市長** 今日は長時間お時間をいただきありがとうございます。草加市の24万市民が生涯を通じて健康な生活を送るためにも市立病院の存在は欠かせません。また、何よりも安心して受けられる救急医療や高度医療を一番求めています。今後もぜひご支援をいただきたいと思えます。

**学長** お互いのミッションを達成するために、共に助け合って発展してまいります。こちらこそ草加市のご支援を重ねてお願いいたします。

# 泌尿器科のがんは国民病？

東京医科歯科大学医学部附属病院長  
腎泌尿器外科学教授 木原 和徳

## はじめに

泌尿器科は、尿を作る腎臓と尿の通路、精子を作る精巣とその通路をおもに扱っています。具体的には、頭側から副腎、腎臓、腎盂、尿管、膀胱、尿道、前立腺、精巣、陰茎など胸の高さから骨盤の出口までの広い範囲となります。近年、日本は世界に先駆けて超高齢社会になっていますが、それに伴って泌尿器科のがんは著しく増加し、長寿社会の国民病とも言えるような

状況に近づいています。

## どのようながんが多い？

泌尿器科の3大がんは、多い順に前立腺がん、膀胱がん、腎臓がんです。がんによる死亡数の増加率は第1位が前立腺がん、第2位が腎臓がん、膀胱がんもベストテンの第10位に入っています。がんの患者数は、3つのがんを合計すると第1位になります。約10年後には、前立腺がん単独でも患者数は第1位になると予測されています。

## 今、どのようなところで見つかったら？

前立腺がんは、PSA(前立腺がんの血液マーカー)の測定を契機に見つかる患者さんが大半です。PSAの測定は人間ドックや頻尿、尿の勢い低下などの症状で泌尿器科を受診した際に行われています。しかし、これらの症状を来す多くの場合は前立腺肥大によるものであり、この際PSAは低値となります。一方、膀胱がんは、肉眼的血尿を契機に見つかる患者さんが多くを占めます。腎臓がんは、健康診断や他の病気の診療の際に超音波検査、CT検査、MRI検査などを受けて、たまたま見つかる患者さんが多いと言えます。

## 基本的な治療法は？

前立腺がんの治療法には、(1)無治療で経過観察、(2)手術、(3)放射線治療、(4)ホルモン治療(男性ホルモンを抑える)、(5)抗がん剤がありますが、その選択にあたっては、がんの悪性度や広がり、患者さんの年齢などが判断材料として考慮されます。他のがんと違って、転移があっても内分泌療法が有効です。膀胱がんには、(1)手術、(2)放射線照射、(3)BCG(弱毒結核菌)膀胱内注入、(4)抗がん剤の膀胱内あるいは全身投与という治療法があります。初めに、尿



器科にてお聞きください。

## ① ロボサージャンガスレス・単孔手術(左上写真)

基本的に硬貨程度のひとつの孔で、炭酸ガスを使わず心臓や肺などへの負担を回避して完了する手術です。ヒトの能力を超えた機器を身に付けて行います(通称・ロボサージャン)。腹膜の中は無傷で温存され、予防的抗菌薬は最小限にすることができ、経済的コストも低い手術です。3大がんには、この手術を行っています。当科で開発を進めてきたミニマム創内視鏡下手術の最先端型です。

## ② 浸潤性膀胱がんの膀胱温存療法

従来、膀胱全摘除を行ってきた患者さんの約半数は、当科で開発した「低用量化学放射線治療+膀胱部分切除・骨盤リンパ節郭清」で機能の良い膀胱を温存できると考えています。それを裏付ける成績を得ています。

## ③ 腎臓がんの無阻血腎部分切除

腎臓への血流を遮断せずに、小さな孔から腎部分切除を行い、腎機能を十分に温存しています。腎臓における癌の位置にかかわらず、多数の患者さんに行っています。

## ④ 前立腺がんの前立腺部分治療

前立腺がんに対して、腎臓がんと同じようにがんの部分のみを小線源で治療する方法を開発し、最も優れた排尿機能、性能の温存法として実践を進めています。

## 市立病院における泌尿器疾患の治療

草加市立病院 泌尿器科部長 鎌田 成芳

## 泌尿器科の中心「がん診療」

現在、市立病院泌尿器科で行われている手術の3分の2はがんの手術で、泌尿器科はがんを中心に診療しているといっても過言ではありません。高齢化の進行とともに泌尿器がんの手術は年々増加を続け、昨年は120件を超えています。

## 尿路結石症の総合治療

尿路結石症は、以前は比較的若い方の病気でしたが、最近高齢者の尿路結石が増加の一途にあります。市立病院では、昨秋に体外衝撃波結石破砕(ESWL)装置を新設し、すでに多数の方が治療を受けられています。また結石の大きさや位置によっては、内視鏡による結石除去手術も積極的にを行っています。

## 各専門医との連携で合併症に対応

泌尿器の病気はもともと高齢者に多いことから、普段から持病をお持ちの患者さんが多く、これらの持病に対処しながら治療を進めることがとても重要です。市立病院では各診療科の専門医が揃っており、病院全体の総合力を活かしてよりよい治療に結び付けたいと考えています。

## もう一つの「国民病」「排尿障害」と「蓄尿障害」

膀胱は単に尿をためる袋ではなく、普段は尿を貯め(蓄尿)、必要なときには尿を出す(排尿)という相反する働きをする臓器です。このような働きは自律神経と膀胱の筋肉が巧妙に連携することで可能になっています。しかし、様々な原因でこれらのバランスが崩れると蓄尿・



ロボサージャン・ガスレス・シングルポート手術

# 災害時に市立病院の役割を果たすために

3年前の東日本大震災、昨年9月の越谷市周辺の竜巻、豪雨や大雪など突然襲い掛かる大災害の恐ろしさを身近で感じるようになりました。

市立病院では今後大規模災害が発生することを想定し、病院の設備機能の確保や災害時に素早く対応できるよう災害訓練に力を注いでいます。また、病院単独での対応には限界があるため、被災地以外からの支援を受けて活動できる体制づくりも進めています。



## 災害にも対応できる設備機能

平成23年3月に発生した東日本大震災では東北地方などの多くの病院が被害を受け、病院における災害対策の重要性を改めて認識させられたところでした。こうした大規模な災害が発生した場合に、病院は院内の患者さんや職員の安全確保を行うだけでなく、被災した傷病者を受け入れることになり、そのため設備機能の確保が必要となります。

災害時に水道、下水、電気などが寸断されると、医療活動に支障をきたします。このため、市立病院ではライフライン確保の対策を講じています。まず、手術や集中治療など生命に直結する電力を維持するために、自家発電機を備えています。また、入院患者さん用の3日分の食糧と水を備蓄しています。そのほか水洗トイレ等で使用する水を確保するため、病院敷地内で井戸掘削工事を行いました。さらに通信手段として衛星回線も引いています。



エントランスホールでの治療

来院するため、広い診療スペースが必要となります。重症患者さんは救急外来で治療し、その他の多くの患者さんはエントランスホールや外来待合で診療を行います。当院の外来待合の椅子はベッドとしても利用できる仕組みになっています。簡易ベッドやテントは備蓄倉庫に保管しています。また、玄関ロビーの壁を開けると酸素の取り付け口と非常用の電源が配備されています。

## 通常の診療とは全く異なる災害医療

災害時の診療は、普段の診療とは全く違い、一人の医師が何十人も患者さんの診療をしなければなりません。そのため、定期的に訓練を実施し、災害時に素早く対応できるよう技術の向上に努めています。

トリアージ訓練もそのうちの一つです。トリアージは、多数の傷病者が発生した場合に、一人でも多くの命を救うため、治療の必要性が高い傷病者とそうでない傷病者を選別し、治療の優先順位を決定する大変重要なものです。トリアージをせずに



救急搬送患者のトリアージ

## 来るべき大災害に備えて

草加市立病院救急科部長 南和

災害には5つの種類（地震・津波・風水害・原子力災害・感染症）があります。どの災害もある日突然、恐るべき破壊力ややって来ます。阪神淡路・東日本大震災を経て、国内の災害医療は急ピッチで整備されています。それでも災害発生直後は現場が混乱し、災害の規模や人が人の数が正確につかめず、救援は遅れがちです。また、交通

が遮断され、救援がたどり着かないこともしばしばです。そんな時、一番力を発揮するのは、その場に居合わせた市民の方々です。大島の台風で家屋の下敷きになった人を救い出したのは、近所の人達です。ボストンマラソン爆破事件では、ランナーが大出血する人の足を圧迫し、心臓マッサージをして命を救ったと聞いています。福知山の火花

大会では、救援隊が到着した時、すでに動ける人と動けない人で区分けされていたそうです。

災害用の水や食料を準備するように、心肺蘇生や応急手当についても、日頃から慣れ親しんでいただくようお願いいたします。草加市消防本部では救命講習会など随時行っています。また、災害時には命を救うことが優先されることにご理解下さい。

東日本大震災でのお互いを思いやる被災者の姿は世界に称賛されました。草加市の皆さまもどうぞよろしくお願いたします。

先着順で診療を行った場合、重症者が長時間放置される事態が生じます。また、医療スタッフや医薬品が足らなくなってしまう、確実に救命が可能であった人への処置ができなくなることなども考えられます。トリアージは限りある医療資源を適切に配分するための前提となる作業なのです。

## 災害拠点病院の指定に向けて

大規模災害発生時には、多くの傷病者が発生します。重症の傷病者を一人でも多く救命するためには、市立病院や草加市だけでなく被災地以外の力を借りて支援してもらうことが重要です。

阪神・淡路大震災の教訓をもとに、国では災害時の医療を確保することを目的に、24時間対応可能な緊急体制をもつ「災害拠点病院」の整備を進めています。県内では現在15の病院が指定されていますが、市内には「災害拠点病院」がなく、市立病院は今年度中に県から「災害

拠点病院」の指定を受けられるよう医療体制を整えているところです。

災害拠点病院の役割は、災害時に発生する重篤な救急患者さんに対し24時間緊急対応を行い、患者さんの受け入れや搬送、消防機関と連携した医療チームの派遣を行うことです。しかし、現在市立病院内には患者さんの受け入れや搬送のために使用するヘリコプターの離着陸場がないため、災害時には防災公園の機能を持つ綾瀬川左岸広場、または松原団地内に整備される松原近隣公園を離着陸場として利用する計画です。空路による医療・救援物資の受け入れや搬送は、災害時に大きな力を発揮します。

近い将来に高い確率で発生するとされている大規模地震。市立病院では万が一の災害に備え、一層の医療機能の強化に努めています。